活動報告;第260回例会　地名探訪

坂のまち善行と藤沢宿への古道を行く

～宿場の農村部から一大住宅地へ変貌するまで～

2022.6.7(火)，11(土)　　酒井　郁子　記

6 月 7 日(火)と 11 日(土) の二日間、善行の地名探訪を実施し、会員・一般合わせて、のべ 75 名の方にご参加いただきました。2 日間とも、梅雨さなかで心配されていた雨もなく、ちょっぴり蒸暑く薄曇りの空は、この時期としては散策日和の天候といえましょう。

善行の地名探訪と云えば、坂を登って下って、善行神社や立石神社といった史跡を巡るのが、定番コースです。今回はガラリと趣向を変えて、この地区は近世には藤沢宿の一部（枝郷）ということから“藤沢宿への古道”と、穏やかな農村地帯が大変貌する“善行の昭和史”という 2 つをテーマに据えてのコースづくりをしました。

地名探訪開催のチラシには、善行駅開業時の写真を使いました。大正期まで長く続いた静かな農村地帯は、激動の昭和の荒波により土地利用が二転三転します。現在の駅付近一帯は、昭和の初めにはゴルフ場になり、戦時下で海軍基地として接収され、戦後すぐは福祉施設や教育施設に払い下げられました。まさに、時代の“必要”に迫られて、善行周辺は変化していきます。そして高度経済成長期、首都圏ベッドタウンとして大規模開発された街が今の善行。駅の開業はその象徴でしょう。

善行駅開業当時の写真（藤沢市文書館提供）

当日は、善行市民センターやグリーンハウスなど、昭和史を語りながら皆さんと歩きました。

善行団地開発当時の写真（藤沢市文書館提供）

もう一つのテーマは“古道”。善行地域には八王子道、円行道（別名　星ノ谷道）、善行寺道が通っていました。坂が多くて有名な善行ですが、昔の道はいまよりずっと急坂でした。今回の探訪では、台地の上を走る旧八王子道から、急坂が体感できる本入坂を歩いて藤沢本町へと向かいました。参加者の多くも初めて歩く脇道でしたが、ここは、相模内陸の村落や武蔵国へと人々歩いた流通の主要道。現代は、車で国道を難なく移動できますが、昔は自分の足や、馬に乗って急な坂道を行き来しました。藤沢宿までの街道に設けられた立場では、きっと木陰で一服し汗をぬぐってから、それぞれの目的地へ向かったことでしょう。そんな、昔の人の苦労に想像を馳せながら、終着地の藤沢本町駅へと、皆さんとお話ししながら歩いた二日間でした。